

S-face

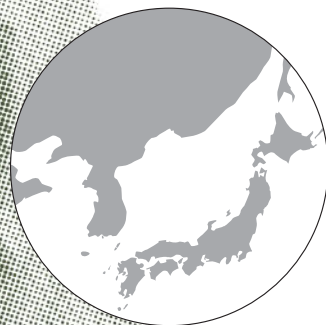
SFC makes the future through researches

朝鮮語から 朝鮮民族を知り、 世界を知り、日本を知る

高木 丈也

VOL.
024 /100

2018.Jan 発行
和の色・土曜緑色



日常生活の中に息づく言葉から その特徴をあぶり出す

私の専門は、広く言えば社会言語学、狭く言えば朝鮮語学、あるいは方言学です。言語を分析するアプローチには、大きく分けて演繹（えんえき）的な方法と帰納的な方法がありますが、私は主に後者の方法を用いて研究を行っています。つまり、日常における言語使用の実態をありのままに観察し、それがどのような場面で、どのような人たちによって使われているのかを分析し、その特徴をあぶり出すという作業を行っています。言語は実際の場面と話者、そして音声なくしては分析できないと考えるからです。

例えば、私はかつて、日本語と朝鮮語の話者、計84人の日常会話を採録し、それを談話分析（discourse analysis）の手法により分析したことがあります。すると、面白いことに、日本語では相手の発話を誘発する表現であっても、朝鮮語では不明瞭でわかりにくい表現になるというように、両言語には、直訳可能であっても表現運用レベルで多くの差が存在することが明らかになりました（例えば、「お住まいは…」に対する「사시는 데가…」など）。このことは、とかく類似性が強調されがちな両言語の記述において非常に重要な問題を提起していると思います。私はこうした研究を重ねていくうちに、やはり言語というものは、実現形態レベルで捉えることが重要であるという確信を持つに至ったのです。

朝鮮語を母語とする人口は イタリア語とほぼ同数！

現在は、韓国だけでなく、世界に散在する朝鮮民族の言語生活に注目し、調査・研究を行っています。

朝鮮民族は、「朝鮮語」を母語とする民族の総称で、今日、朝鮮半島に南北合わせて約7500万人が居住するほか、半島外にも約743万人もの人々が暮らしています。朝鮮半島以外での居住先として、最も多いのは中国で、東北3省を中心に約180万人、次いでアメリカ合衆国に約170万人、日本に約50万人、ロシアや、中央アジアなど旧ソ連地域に約50万人などとなっています（2010年の統計による）。世界の言語の中で朝鮮語話者の人口は13～15位にあたり、これはイタリア語とほぼ同じ話者数です。朝鮮語、そして朝鮮民族は、おそらく皆さんがイメージしている以上にグローバルな存在なのです。

朝鮮民族は、植民地支配や朝鮮戦争、国家の分断などを経験しながら、世界中のさまざまな国や地域に移住を繰り返してきました。そのため、朝鮮民族を総体として理解するためには、世界の広範な地域を捉えていくことが不可欠であると考えています。



世界各地の朝鮮語を採取し 朝鮮民族への理解を深める

北朝鮮問題、韓流ブームなど、朝鮮半島をめぐるニュースは、私たちにとって良くも悪しくも身近な存在となっています。

しかし、私たち日本人は、隣国で暮らす民族について、どの程度理解しているのでしょうか？

実は、朝鮮語・朝鮮民族は、私たちがイメージしている以上にグローバルな存在です。

高木丈也専任講師は、世界各地に広がる朝鮮語の談話分析を通じて、

朝鮮民族への理解を深めようとフィールドワークを重ねています。

Fieldwork

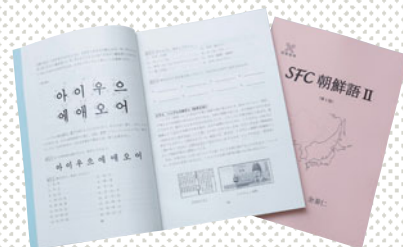
フィールドワーク



方言調査のフィールドワークを行う高木専任講師。調査では、方言話者どうしの自然な会話を採取することが求められる。できるだけ日常に近い心理状態で会話してもらうため、現場の雰囲気づくりに心を砕いているという。

Original Texts

オリジナルテキスト



2017年度から湘南藤沢キャンパス（SFC）の朝鮮語科目で使用されているオリジナルテキスト「SFC朝鮮語Ⅰ／Ⅱ」（高木丈也、金泰仁 著）。この2冊をマスターすれば、ハングル能力検定試験3級相当の語学力を身に付けることができる。SFCが掲げる「多言語主義」をコンセプトに、学生たちの知的好奇心をかきたてる内容で構成されている。

Seminar

研究会



高木丈也研究会では、朝鮮の文化・社会について、毎回、学生による研究発表と質疑応答、議論を中心に進めている。言語・教育・生活・コミュニケーション・歴史など、多様な観点から分析することにより、この地域の文化的・社会的特性を明らかにすることを目指す。

調査・研究を通じて得られた資料を 「文化資料」としてアーカイブ化

私のフィールドワークでは、朝鮮民族の生活の場を訪問して朝鮮語母語話者同士の日常会話を録音させてもらい、それがどのような関係性、状況における会話なのかを考慮しながら言語的、文化的特徴をあぶり出していきます。特に在外朝鮮民族の調査では、移住第1世代の会話を多く採取するよう心がけています。なぜなら、第2世代以降は生活環境の変化などの影響を受け、言語の特徴が薄まってしまうからです。だからこそ、今後の調査・研究は時間との闘いです。

中国朝鮮語に関する研究では、遼寧省、吉林省、そして北京市・広州市といった都市部での調査が終了し、今後は黒龍江省や内蒙古自治区などの調査を進めていく予定です。その後は、旧ソ連地域に居住する高麗人や、アメリカに居住する在米コリアンの調査も行いたいと考えています。また、日本国内に目を転じると、在日コリアン1世は、すでに人口比率が5%を切っています。彼らに関する調査・記述も急がなければなりません。

そして中長期的には、これらの調査を通じて得られた資料をデジタルアーカイブ化し、多くの人たちがアクセス可能な文化資料として保存していきたいと考えています。将来的にはそれらの資料を総合的に検証し、朝鮮語や朝鮮民族が、世界各地の民族・地域社会とどのような相互作用を生み、いかなる多様性を生み出してきたかを解明したいと考えています。



Profile 高木 丈也

慶應義塾大学総合政策学部専任講師。東京外国語大学外国語学部朝鮮語専攻卒業。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程修了。2016年朝鮮学会研究奨励賞受賞。朝鮮語と、世界各地に散在する朝鮮民族の多様性に迫るため、精力的にフィールドワークを行っている。専門は朝鮮語学、社会言語学、方言学。博士（文学）。

詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所
慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当
〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322
Tel: 0466-49-3436（ダイヤルイン）
E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp